

令和7年度に取り組んだ改善策の結果

成果自己評価：◎＝成果が大きい、○＝成果がある、△＝成果があるか不明、×＝成果なし

改善項目（１）留学生のSOSの迅速なキャッチ

コーディネーターが定期的にしま親宅を訪問し、留学生・しま親・保護者と信頼関係の構築を図り、留学生のSOSをキャッチし、事前に対応することができた。

① 留学生向けアンケート（生活実態調査）の毎月実施：◎

（実績） 8回

（概要）留学生の心身の変化やしま親または家族との関係性等について把握することができた。調査票を学生用タブレットに配信し回答してもらう形式とし、年11回から8回へ変更することで負担の軽減を図った。

（課題）困り感のない留学生にとってはアンケートが負担になっている。

② アンケート（生活実態調査）の回答をもとに留学生面談の迅速な実施：◎

（実績） 31件

（概要）アンケート結果に不安のある留学生、前月の回答と比べ変化を感じた留学生と面談を行い、不安解消・問題の早期解決につながった。

（課題）困り感のない留学生は面談時間で休み時間や部活動の時間を割かれることに不満を抱く場合もあった。

③ 定期的なしま親宅訪問の実施：○

（実績） 44回

（概要）しま親との信頼関係の構築に努めたことで相談しやすい体制が整い、しま親の悩みに寄り添い解決策を講じることで困り感を軽減することができた。また、学期毎にしま親向けの生活実態調査を実施したことで、留学生のしま親宅での生活を把握することができた。

④ 保護者（実親）との連絡：◎

（実績） 70回

（概要）面談内容や生活の様子を保護者と共有することで、保護者から受けた相談には関係機関と連携を取りながら対応し、保護者の心的負担を軽減できた。また、しま親と保護者双方の考え等に誤りがないように積極的に努めた。

⑤ 学校との情報共有：◎

（実績） 26回

（概要）アンケート結果や面談内容を学校と共有し、連携を図りながら対応できた。学校へ寄せられるしま親からの相談内容を市教委が把握でき、問題解決の重要な情報となった。また、交流会への学校の参加を促すことができた。

改
善
策

改善項目（２）留学生情報の事前共有

留学希望者の事前見学及び面談には教育長をはじめ、学校教育課職員（教諭）、担当職員、コーディネーターも同席し、より多くの意見を反映したアセスメントを行うことができた。

また、困り感のある留学希望者の面談時には臨床心理士や太陽教室職員にも同席いただき、より専門的な視点でアセスメントに取り組むことができた。

この結果を基に、実施協議会で出た多角的な意見を取りまとめ、運営委員会で専門家や学校・地域関係者等の意見やアドバイスを取り入れ留学希望者の審査を行うことができた。

① アセスメントシートの作成・活用：◎

（改善点）留学タイプに合わせたアセスメントシートを作成し、面談時に実施した。

（成果）留学希望者の目的意識の高さや学校及び家庭内での状況、留学するうえでの留意事項など関係職員全員で共有することができた。また、受け入れの判断基準が明確になった。

② 保護者・児童生徒との面談の充実：◎

（改善点）親子別での面談場面を設定した。

（成果）それぞれの目的意識を確認し、留学生の現状（登校状況、家での様子等）を把握することで、困り感をキャッチするなど、より本心に近い情報を聞き取ることができた。

③ 留学希望者情報の事前共有：○

（改善点）事前見学の受け入れを学校に依頼する時には、留学希望者の困り感についても共有して見学を実施した。

（成果）受け入れ先の学校も、子どもの実態に応じた準備等ができ、留学生の学校生活の質の向上につながった。

改
善
策

改善項目（3）しま親の負担感の軽減

コーディネーターが定期的にしま親宅を訪問し、ホームステイ先での留学生の生活の様子を把握し、しま親に困り事や負担がある場合は改善に向け取り組むことでしま親支援の充実に努めた。

① 留学生情報の提供：◎

（継続実施）新規しま親留学生の情報について、しま親宅を訪問し、申込書と新規留学生の特性や困り事等について情報を共有した。

（効果）新規留学生の受け入れに当たり、しま親側からの条件等を確認し留学生保護者にも伝えることで、しま親の不安軽減を図った。

② しま親と市教委で留学生の預かり上限を設定：○

（継続実施）次年度の留学生募集時期に留学生の預かり人数や性別についてしま親に確認し、しま親宅の部屋数や心身の負担を考慮しつつ預かり上限を設定した。

（成果）アンケートなどから、しま親宅での生活は快適である旨の回答があり、留学生の生活の質の向上につながっている。

③ 緊急時避難場所の設定：◎

（実績） 1回

（概要）しま親が体調を崩した際に、他のしま親宅に預かってもらうとともに、送迎や留学生のスケジュール等について随時情報を共有し、しま親の負担軽減を行った。

④ 職員及びコーディネーターによるフォローアップ：◎

（実績） 26回

（概要）

- ・日中や夜間のしま親が多忙な時間にしま親宅を訪問し、留学生の生活改善に向けた支援を実施した。
- ・留学生が疾病罹患時、しま親が病院へ送迎できない時にはしま親に代わり、送迎及び受診の付き添いを行った。
- ・自室の整理や片付けが苦手なしま親留学生については、定期的に訪問を実施して、片付けの方法を教えながら、留学生と共に取り組んだ。

改善項目（４）留学生生活の充実

留学生交流会、しま親交流会を定期的を開催し、運営委員会の委員・実施協議会の委員をはじめ留学に関わる学校や地域関係者にも参加いただいたことで、留学生の様子を多くの人を知ることができ、新たなつながりが生まれた。

① しま親交流会の実施：○

（実績） 3回 参加者 25名

（概要）各学期に1回程度開催し、講習では共通した知識を学び、意見交換会ではしま親同士の苦労や工夫を語り合あった。

（成果）しま親としての役割を再認識できた。保護者も一緒に参加された。

【1学期】

開催日：令和7年8月18日（月）

内 容：長崎県政出前講座「こんなとき、どうする？どうして？～発達が気になるお子さんや障害のあるお子さんとのかかわり方を学んでみませんか～」

（講師：長崎県教育庁特別支援教育課 課長補佐 中尾敏光）

参加者：しま親5名 保護者6名 委員8名 市教委3名

【2学期】

開催日：令和7年12月23日（火）

内 容：しま親・いきっこ留学保護者・担当者と集まり、食事と意見交換などを行う。

参加者：しま親2名 保護者4名 市教委2名

【3学期】

開催日（予定）：令和8年3月下旬

内 容（予定）：令和8年度壱岐市いきっこ留学制度についての説明会

参加者（予定）：しま親 市教委

② 留学生交流会の実施：○

（実績） 4回 参加者 82名

（概要）各学期に1回程度の開催を目標に取り組み、中学生が参加しやすいように、土曜日の午後や日曜日にも日程を組み入れた。初の取り組みとして、壱岐高校の離島留学生が参加する、原の辻ガイダンスでの田植え、稲刈りに一緒に参加し、交流をもった。第2回交流会では離島留学生と共にシーカヤックを体験した。小学生は交流会の参加を重ねるたびに仲良くなる様子が見られた。

（課題）中学生は参加者が限定的だったので、中学生の参加者が増えるよう交流会の内容を検討する必要がある。

（検討）留学期間満了後も引き続き壱岐市の学校に通学する留学生が増えており、留学終了後も交流会への参加を希望される声があり、本年度案内したところ、参加する修了生があった。来年度も案内をしていきたい。

【1学期】

開催日：令和7年4月7日（月）

内 容：令和7年度吉崎市「入市式」

参加者：吉岐高校新規留学生5名 保護者 吉岐高校関係者
吉崎市いきっこ留学新規留学生8名 保護者 吉崎市関係者
しま親4名（高校1名 いきっこ2名 共通1名）
地域関係者1名 委員10名 学校5名 県教委0名 在籍留学生3名

開催日：令和7年5月17日（土）

内 容：「原の辻 お田植祭～古代米の田植えをしてみよう！」

（原の辻ガイダンス横 田んぼ）吉岐高校の離島留学生も参加している。

参加者：留学生8名（しま親3名 孫戻し0名 親子5名）

しま親2名 保護者5名 委員3名 市教委3名

【2学期】

開催日：令和7年9月13日（土）

内 容：シーカヤック体験（吉岐出会いの村）

参加者：留学生12名（しま親9名 孫戻し1名 親子2名）

しま親4名 保護者2名 委員4名 市教委7名

吉岐高校の離島留学生6名も一緒に参加している。

開催日：令和7年10月11日（土）

内 容：「原の辻 刈入れ祭～古代米の刈り入れにチャレンジしよう！」

（原の辻ガイダンス横 田んぼ）吉岐高校の離島留学生も参加している。

参加者：留学生6名（しま親4名 孫戻し0名 親子2名）

しま親2名 保護者1名 委員2名 市教委4名

【3学期】

開催日：令和8年1月18日（日）

内 容：「郷土料理ひきとおしとおにぎりを作ろう。かるた等の正月遊びを楽しもう」

参加者：留学生11名（しま親6名 孫戻し1名 親子3名 修了生1名）

しま親1名 保護者3名 委員5名 ヘルスメイト4名 市教委5名

開催日（予定）：令和8年3月8日（日）

内 容（予定）：令和7年度吉崎市いきっこ留学修了式

参加者（予定）：留学生 しま親 保護者 委員 学校 関係地区代表 市教委

その他

改善策

①吉岐市いきっこ留学実施協議会の設置：◎

(継続) 吉岐市いきっこ留学制度運営委員会(市の附属機関)の審査機関としての役割をより明確にするため、令和6年度から「吉岐市いきっこ留学実施協議会」を設置し、いきっこ留学の運営において繋がりを求められている地域、関係機関(子育てや健康面)学識関係者を委員に登用した。

また、交流会を通じて留学生と関わることで、個々の留学生に応じたご意見をいただき、留学制度の運営に反映することができた。

②運営委員会委員に専門家を登用：◎

(継続) 臨床心理士や社会福祉士といった資格を持った委員に登用できた。